

学校給食に対する父母の意識調査

— ゆとりと充実のある学校生活を求めて —

三重小学校 斎藤 ユキ子

I 研究課題設定の理由

1. 今回の教育課程の基準の改善は人間尊重第一主義をとり¹⁾自ら考え正しく判断できる力をもつ児童の育成²⁾を重視し、(1)人間性豊かな児童の育成、(2)ゆとりと充実した学校生活、(3)基礎的基本的内容の重視をあげている。その中でゆとりと充実の学校生活を送れるために給食指導のあり方などがクローズアップされつつある。

本校においても新教育課程の完全実施を前にして、この移行期間中に昭和55年度を目指し学校給食という立場からの指導計画の立案に着手しようとするための基礎資料の収集を実施した。

審議会答申でも述べているとおり、学校給食は、特に家庭教育及び社会教育との関連が重要であり、それぞれ固有の機能を発揮しながら相互に補充しあうような総合的な教育のシステムを構想していくことを要求している。学校給食という立場から考えた時、この趣旨を適確にはあくし指導計画の立案作成及び完全実施をしていくことは、非常に大切なことである。

2. この機会に本校においては、次の点について、謙虚に反省を加え望ましい学校給食の実施を図りたいと考えた。
 - (1) 今まで、学校給食の指導のねらいと内容が明確に父母に浸透していなかったのではないか。
 - (2) 個々の父母の声は聞けるが全体的に計画的に父母の希望や意見をきく機会が少なかったのではないか。
 - (3) 世間一般でいわれている(図書類、放送関係等)学校給食に対する意見に対し学校は、客観的に態度をあきらかにしていなかったのではないか。
 - (4) 給食を受ける子どもたちの意見より、教師側からの一方的な指導が多かったのではないか。
 - (5) 学校給食は、学校だけのものという考えが強くあり、子どもの食生活の一環として行われるという考えでの指導がなかったのではないか。

II 調査方法

前記の考えから父母及び児童に対して、その考えや希望意見をきくためのアンケート調査を実施した。

(期 日) 11/6 11/20 12/18 1/16 1/20

(対象者) 各学年一クラスの父母 合計(225名)
各学年一クラスの児童 合計(225名)

(方法) アンケート用紙に各自記入をお願いし、その結果をその都度回答者全員に知らせる。

(調査項目)

- (1) 現在の学校給食に対する希望や不満があったらおきかせください。
- (2) お子さんを入学させる前、給食に対する心配はありませんでしたか。

- (3) お子さんが入学してから、その心配や不安はどのようになりましたか。
- (4) 学校では、偏食をなくすために、先生方がいろいろくふうしていますが、このことについてどうお考えですか。
- (5) 学校給食は、すききらいをなくすために、どの子にも給食を食べるように指導していますが、きらいなものを食べさせることについて、どうお考えですか。
- (6) あなたの家では、食事のしつけについて、どんな事をしていますか。
- (7) お宅では、朝と夜の食事に、どのくらい時間をかけていますか。
- (8) あなたの給食に対する夢をきかせてください。

Ⅲ アンケート調査の結果と考察

給食に関するアンケート -1号- 昭和53. 11. 6 三重小給食係

父母の皆様へのお願い

「現在の学校給食を少しでもよくするために皆様のお声をぜひお聞かせください。」

- ※ このたび三重小学校では、学校給食に関する事で研究することになりました。そこで皆様の声をまとめ少しでもよい給食をと考えておりますのでぜひご協力ください。結果につきましては、皆様にも必ずお知らせいたします。
- ※ 今の学校給食に対して、いろいろ希望や不満などおありのことと思いますので何でもけっこうですから書いてください。一般的なことでなくても自分の家の子に限ってでも、けっこうです。その意見を大切にしたいと思います。

給食に関するアンケート -2号- 昭和53. 11. 20 三重小給食係

前号のアンケート〔現在の学校給食に対する希望や不満があったらおきかせください。〕

※学校給食を少しでもよくするために父母の皆様のご意見をいただいておりますが前号の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

< 給食のよいところ >

- ・栄養のバランスがとれてよい 34.5%
- ・すききらいがなくなってよい 18.5%
- ・お弁当を作る手間がはぶける 15.5%
- ・家で食べなくても給食なら食べる 8.5%
- ・みんなと同じものを食べる 6.0%
- ・献立がバラエティにとんでいる 4.0%
- ・給食を子どもは楽しみにしている 4.5%
- ・献立表は、とても参考になる 2.5%
- ・経済的に安いので助かる 3.5%

< 給食の問題点や要望 >

- ・パンの残量が多いおいしいパンを 16.0%
- ・ごはん給食をふやしてほしい 14.0%
- ・果物生野菜をもっと出してほしい 5.0%
- ・きらいな物は無理に食べさせない 4.5%
- ・パパロア、ミルメーク、あげパン、やきそば
プリン、ドッグパンをもっと多く 4.0%
- ・おはしを使用させてはどうか 3.0%
- ・まるごとの果物は、食べにくい 2.0%
- ・給食時間を、もっと長くして 1.5%

・食べずきらいがなくなる	1.0%	・あさは砂があっておいしくない	1.5%
・親子試食会は楽しかった	1.0%	・ロールパンの時もジャムを	1.5%
・牛乳がのめるようになった	1.0%	・きれいな子にも多少の無理はよい	1.0%
・給食ほどの献立を毎日の弁当には 用意できない。	1.0%	・米飯の時は、つけものお汁	0.5%
・食事のマナーも友だちと一緒に できる	0.5%	・おむすび、いなりずしも出して	0.5%
・残さず食べる指導はよい	0.5%	・三階まで運ぶのはあぶないので 食堂があるとよい	0.5%
		・料理はもっとていねいに (カレーのかたまり、野菜の大切り)	0.5%

学校給食についてあまり質問の制約をしないで自由に父母の声を反映させてみたいと考え大きな質問を考えた。

その結果・印にあるように学校給食のよい面として、

- ・栄養のバランスのこと
- ・偏食矯正のこと
- ・弁当を作る手間がはぶけること
- ・皆と同じ物を食べること

などが多く返答されたが学校給食のねらいである食事の正しいあり方の体験や食事を通しての好ましい人間関係の育成等の面で、もう少し父母への啓蒙の必要を感じた。また、指導上の留意点である偏食指導の面では家庭と連絡をはかりながらの矯正が成果をあげつつあるということも感じられ、今後もその方針で進めることが必要であろう。また衛生面や安全については、自分自身のためでなく他の児童に迷惑を及ぼさないためであることなどは、今後の父母へのPRにまつものがあるように感じた。

また、学校給食の問題点や要望として、

- ・おはしの問題
- ・ごはん給食のこと
- ・パンの量のこと
- ・果物や野菜の問題
- ・偏食指導の問題

など、社会的問題がそのまま本校の給食に対する要望となってでてきている。おはしの問題については、先われスプーンの問題があり、犬食いの問題などと合わせて、児童の食生活の一環としての食事マナーとして父母はこの問題をとらえているようである。

パンの残量のこと、偏食指導のことは、個人的な問題であるようにも考えられるが、多くの父母からこの声が出ている背景も謙虚に反省してみる必要があるのではなからうか。

果物や野菜の問題とあわせて、ぜいたくな要望や、学校給食というイメージからはみ出しているものなども、見受けられるが一般世間の食生活が大幅に変化している現在、"カロリー優先だけの学校給食"というイメージだけは一時も早くぬぐいさりたいものである。

給食に関するアンケート - 3号- 昭和53. 12. 18 三重小 給食係

(問1) お子さんを入学させる前、給食に対する心配は、ありませんでしたか。

(問2) お子さんが入学してから、その心配や不安は、どうなりましたか。

<p>(心配なかった) 1の1 51%</p> <p>学校にまかせてある 給食を楽しみにしていた 偏食がない 幼稚園でも給食があった 兄がいるので知っている</p>	<p>(心配だった) 1の1 49%</p> <p>食べるのがおそい 偏食があった 牛乳がのめない 小食なので あわてものでこぼす</p>	<p>(入学後のようす)</p> <p>心配がなくなった 偏食がなおった パンを残してくる まだ早く食べられない</p>
<p>2の2 29%</p> <p>別がない 偏食がない 保育園でも給食があった 給食を楽しみにしていた</p>	<p>2の2 71%</p> <p>偏食があるので 食べるのがおそい 小食なので 牛乳がのめない</p>	<p>何でも食べるようになった 食べるのが早くなった 生野菜まで食べる まだ相変わらずおそい</p>
<p>3の2 62%</p> <p>別がない 偏食がない 幼稚園から給食があった 給食を楽しみにしていた</p>	<p>3の2 38%</p> <p>偏食があった 小食なので 食べるのがおそい 野菜ぎらい</p>	<p>何でも食べるようになった 給食を楽しみにしている まだ食べずぎらいがある パンだけ残してくる</p>
<p>4の1 58%</p> <p>別がない 偏食がないから 給食を楽しみにしていた 偏食がなおる</p>	<p>4の1 31%</p> <p>偏食があった 野菜ぎらい 小食なので こぼすので</p>	<p>何でも食べるようになった 心配なくなった 野菜はまだ食べない</p>
<p>5の1 69%</p> <p>別がない 偏食がなかったから 給食を楽しみにしていた 家でよく指導しておいた</p>	<p>5の1 39%</p> <p>偏食があったから 小食なので 食べるのがおそい 何がでるかかわからない</p>	<p>心配なくなった 偏食がなおってきた 親より偏食がなくなった 献立を子どもが教える</p>
<p>6の3 61%</p> <p>別がない 偏食がなかった</p>	<p>6の3 39%</p> <p>偏食があった 牛乳がのめない 小食なので</p>	<p>偏食がなおってきた 牛乳がのめる パンを食べてくる</p>

アンケート3号の設問は、学校に入学させる前の父母の学校給食に対する不安がいろいろな場できかれ、面接の場合など、このことを中心に話をする父母も多くいる現状なので、このことについて、学校としては、今後どうすべきかを考えるための設問である。

まとめてみると

— 心配だったかどうか —

	心配なかった	心配だった
1の1	51%	49%
2の2	29%	71%
3の2	62%	38%
4の1	58%	42%
5の1	69%	31%
6の3	61%	39%
全体で	(52%)	(48%)

大別してみると、約半数の父母が学校給食に対して、不安や心配をいただいていたことがわかる。この父母の学校給食に対しての不安や心配を学校としては、入学前において、あまり意を用いず、解消の努力をしなかったことを反省している。その結果が、学校給食に対する誤解や、その後の担任との関係がうまくいかなかった原因になっているとしたら大変である。

— 心配だった理由 —

	1の1	2の2	3の2	4の1	5の1	6の3	計
偏食がある	6人	19人	6人	12人	5人	8人	56人(31%)
食べるのがおそい	7人	8人	1人		1人		17人(9%)
小食だから	2人	6人	2人	1人	1人	1人	13人(7%)
牛乳がのめない	2人	2人				3人	7人(4%)

学校給食への不安や心配の主なもの、①偏食のあること、②食べるのがおそいこと、③小食のこと、④牛乳がのめないことである。

このことは、ある程度予想していたことであるが、偏食に対する不安などは、実に31% 約三の一の父母が心配していることになる。このことについては、学校としても大切に受けとめなければならない事実だと思う。父母の不安を無視し、学校だけで給食を実施していくということではできない。正しい学校給食のあり方を一時も早く父母に知らせることが、よりよい学校給食への近道では、なかろうか。

給食に関するアンケート — 4号 — 昭和54. 1. 16 三重小給食係

(問1) 学校では、偏食をなおすために先生方がいろいろくふうしていますが、このことについて、どう思いますか。

- よいと思う(94.3%) (1)大変よいこと (2)ありがたい (3)おまかせします。
 (4)偏食がなおってきたのは先生方のおかげです。
 (5)先生方は大変だと思う。(6)家でも食べさせるくふうをしている

- (7)望ましいことだと思う。(6)家ですることを先生にしてい
てありがたい。(9)集団生活の中で偏食をなおすのはよい。
(10)スープやパンなど目先を変えたり苦勞がうかがえる。
(11)偏食は、健康を害するのできびしく指導してほしい。
(12)子どもの健康をまもるためにありがたい。

別にない。無答(5.2%)

偏食指導は家でやる(0.5%) 学校給食は、楽しく食事ができればよい。

偏食のいけないことは、大部分の父母は知っていて何とかしてなおしたい気持ちはうかがえるが、(3)(4)(5)(11)のように、教師に依存しているところは、問題があるように思える。この依存をいかに父母の問題とするのかも今後の学校側の問題となるのではなからうか。

また、(1)(2)(4)(5)(8)(10)(12)のように教師への感謝の気持ちが感じられるものも多いが、この気持ちを、教師に依存するだけでなく、父母も共にという考えから、偏食指導は父母の手でという考えまでに、どう高めるかが、むずかしい問題である。

この中で、パーセントは少ないが、学校給食は、楽しく食事ができればよいという考え方には、今後の指導の必要を感じる。

(問2) 学校給食は、すききらいをなくすためにどの子にも給食を食べるように指導していますが、きらいなものを食べさせることについて、どうお考えですか。

- よいと思う(91%) (1)大変よいと思う。(2)一口でも半分ずつでも少しずつ食べさせるのがよい。(3)あまり無理しないで(4)みんなといっしょなら食べる。(5)少しずつ食べるように指導してもらっているのよい。
(6)とてもありがたい(7)必要なことだから(8)食べずぎらいがなくなる。(9)何でも食べさせてほしい(10)量を少なく色どりをよくして料理をくふうして(11)家ではわがままになりがちだから
(12)個人差に応じその子なりに努力させる(13)つくるのは大変だから
(14)偏食は放っておいてよいというものではないから
(15)何でも食べられると健康によい

- 食べさせなくてよい(8%) (1)どうしても食べられないものはかわいそう
(2)強制しないでほしい(3)アレルギーの子は無理
(4)きらいなものを食べさせるとますますいやになる

別にない(0.5%)

その他(0.5%) 児童の健康保持に対する努力以前になすべきことが他にあるのではないか。

給食を食べさせることについては、(91%)の父母がよいと反応を示しており、その中で偏食矯正については、父母は、だんだんにきれいなものになれさせていく方法が一番よいと考えている。すなわち、(2), (3), (5), (10), (12)などがそれであり、父母は、学校では、このような心理療法に近い方法がとられていると考えていることがうかがえる。

ただ、ここでも問題になるのは、偏食指導は学校でするものという考え方が、(1), (6), (9), (11)にうかがえる。

しかし、この中で(8%)の父母が食べさせなくてよいと反応していることは興味深い、その理由を推測すると、かわいそうだからという親の甘やかし、アレルギーの子は無理という医者との関係、きれいなものを無理に食べさせるとますますいやになるというテクニックの問題等、特徴的な反応がみられた。この辺にも学校給食指導に対するPR不足が感じられる。

偏食指導のアンケートの結果、学校への依存度が高いので、家庭における食事のしつけは、どのようにしているのか知る必要があると考え、(7), (8)の、質問を試みた。

給食に関するアンケート		-5号-	昭和54. 1. 22	三重小	給食係
(問1) あなたの家では、食事のしつけについて、どんな事をしていますか。					
1	すききらいせず何でも食べる	25%	21	遊びながら食べない	1.5%
2	残さずにきれいに食べる	21.5%	22	ナイフ・フォークの使い方	1%
3	食べながらしゃべらない	14.5%	23	感謝して食べる	1.5%
4	姿勢を正しくして食べる	12.5%	24	箸でおかずをひきよせない	1%
5	テレビを消して食べる	11%	25	食前に間食をしない	1%
6	食事のあいさつをする	11%	26	食べすぎない	1%
7	自分の食器は自分で片付ける	9.5%	27	食事途中で立たない	1%
8	ひじをつかない	7.5%	28	もんくをいわずに食べる	0.5%
9	食前の手洗い	5.5%	29	おいしそうに食べる	0.5%
10	こぼしたらきちんとしまつ	5%	30	きたない話はしない	0.5%
11	茶わんは持って食べる	4.5%	31	おかわりは両手で受けとる	0.5%
12	楽しく食事する	4.5%	32	食事中はトイレに行かない	0.5%
13	よくかんで食べる	3%	33	本を読みながら食べない	0.5%
14	きちんとすわって食べる	3%	34	きれいな物は箸をつけない	0.5%
15	箸の持ち方	3%	35	おちた物は食べない	0.5%
16	音をたてないで食べる	3%	36	大口に入れない	0.5%
17	話しをせず早く食べる	2%	37	歌いながら食べない	0.5%
18	行儀よくして食べる	2%	38	箸をなめない	0.5%
19	よそ見をしないで食べる	1%	39	残したら次の食事に食べる	0.5%
20	家族そろって食べる	1%	40	食事の後すぐ横にならない	0.5%

アンケートの結果、反応の多いものとしては、

- ・すききらいせず何でも食べる
- ・残さずきれいに食べる

が20%代であり、その他、食べながらしゃべらない。姿勢を正しくして食べる。テレビを消して食べる。食事のあいさつをする等と続く、このことからわかるように、家庭でおこなう食事のしつけは、極論すれば、すべてマナーに関するものである。このことから、学校における給食指導で特に力を入れなくてはならないことが、うきぼりにされてくるのでは、なかろうか。

(問2) お宅では、朝と夜の食事にどの位の時間をかけていますか。

< 朝 >		< 夜 >	
5分くらい	1%	10分くらい	2%
8分くらい	1%	15分くらい	6%
10分くらい	23%	20分くらい	18%
15分くらい	31%	25分くらい	2%
20分くらい	30%	30分くらい	50%
25分くらい	2%	35分くらい	1%
30分くらい	10%	40分くらい	12%
40分くらい	1%	45分くらい	2%
50分くらい	1%	50分くらい	2%
		60分くらい	4%
		1時間半	1%

このことから言えることは、朝食は、15~20分が60%であり、夜の場合は、30分が50%であり、20分~30分では、およそ70%に及ぶ。

現在本校で実施している給食時間は、(45分)であり、それも準備とあとかたづけを合わせたものであるので、実質的には、(20分)ということになる。

前問の正しく楽しい食事や食事を通しての人間関係の育成や、家族における食事のスピード差を考えると、給食の時間の長さは、十分検討しなくてはならないことでは、ないだろうか。

最後に、学校給食に対して、児童と父母のゆめという形で期待するものを調査し、まとめてみたものが、次の表である。

(問) 学校給食は、どのようになったらよいか、ゆめをかいてください。

<父母のゆめ>

大食堂で好きな献立をえらんで食べる	26%	夢のある変わったパン	4%
今のままの給食でよい	15%	もっと変化のある献立を	3%
音楽をききながら食堂で食べる	9%	セルフサービス食堂で	3%
楽しく食べられる	9%	デザートがたくさんでる	3%
ごはん給食をふやしてほしい	7%	洋食、和食いろいろ	3%
米を使ったもんだんな食べもの	7%	バランスのとれた食事	3%
食事のマナーを身につける	5%	給食時間にもっとゆとりをもつ	2%
あたたかいできたての給食	4%	もっと家庭的な食器で食べる	2%

子どもからアンケートをとって	2%	低学年と高学年の量を変える	1%
子どもたちが作った野菜を給食に	2%	エレベーターで教室へはこぶ	1%
グループ毎に食べる	2%	公害の心配のない給食を	1%
校長先生と一緒に食べる	2%	給食費は国庫負担になる	1%
季節にあったメニューを	2%	残量の少ない給食になること	1%
できるだけ手づくりのものを	2%	青空の下での給食を	1%
箸、フォークも使用させる	2%	母親たちでつくる給食にしたい	1%
お楽しみ献立は1月1回位	2%	カロリーだけでなくうまい物を	1%

<子どものゆめ>

場 所	ランチルームがほしい	20%	きれいな所で食べたい	3%
	外で食べたい	26%	大きなテーブルをかこんで	1%
	屋上で食べたい	24%	にぎやかなところで	1%
	明るく広いところで	12%	図書室で食べたい	2%
	体育館で食べたい	11%	しばふの上で食べたい	4%
献 立 に つ い て	すきな献立をえらんで食べる	14%	食べたい量だけ食べる	2%
	たまにおいしい物を出して	12%	肉料理をもっと多く	2%
	ごはん給食を多くしてほしい	10%	あたたかいできたての料理	1%
	牛乳はパックがいい	10%	お楽しみ献立を月1回位	1%
	果物は毎日でるといい	9%	見た目がきれいな献立を	1%
	おいしく楽しいパンがいい	9%	ごはんの時カレーがでる	3%
	量をへらしておいしい物を	5%	パンにコーヒー	1%
	デコレーションケーキ	3%	できたてのラーメン	1%
	1月1回あげパンを	8%	冬はあたたかい牛乳を	1%
	プリンを多く出してほしい	6%	ミルクをもっと多くして	9%
そ の 他	エレベーターで運ぶ	12%	すきな人と一緒に食べる	3%
	時間をゆっくり食べたい	3%	放送を楽しくききながら	2%
	ナイフ、フォークを使って	3%	箸をつかって食べる	2%
	食べる		もっと運びやすい入れ物	1%

以上の調査結果からわかることは、父母、児童とも食べる場所が関心のまとなっており、食堂での給食という父母の期待に対し、児童は、勉強する場所と食事をする場所をわけてという考えから、ランチルーム、外で食べたい、屋上、広いところ、体育館、図書室などと涙ぐましい発想を提案して

いる。このことは、各家庭においても居間で食事という型から、キッチンルームでの食事という型が多くなってきている現実から考えても、今後の学校給食の方向を暗示しているように思える。

次に、献立面については、個人が選択して食べるという発想が多いのが目につく、このことは、現在、大学食堂や社内食堂などで実施していることであり、現在の体制の変更が可能なら、不可能のことではないという考え方があるように思える。

このほか、米飯給食への希望、果物を毎日出してほしい、食べただけの量をというように、検討の対象としてもよいものも数多くあるように感じた。

その他として、給食の配ぜんの問題として、子どものからだとくらべて食かんの重いことからくるエレベーター運搬のことなど、校舎が三階だてのものが多くなっている現在、子どもの身になっての工夫の必要性が訴えられている。

〈まとめ〉

本校の給食指導を学校教育の一環として位置づけ、ゆとりあるしかも充実した教育計画の立案のために、父母、児童の学校給食に対する考えをアンケート調査によってまとめてみたが、この調査の結果からいくつかの有意義な解答が得られたことに満足している。

今まで、ややもすると教師側の一方的な判断による指導が多かったが、教育は、児童の実態や地域社会の実情を適確にはあくしてなされるものであるだけに、この調査の結果を有効に活用していきたいと考えている。

まとめるにあたって特に注目すべきことのいくつかをあげてみると、

- ① 学校給食のよい面として栄養のバランス、偏食矯正、弁当を作る手間がはぶける、皆と同じ物が食べられるという解答がある反面、家庭での食事のしつけは、栄養面でのしつけは、ほとんどなくマナーだけに重点がおかれていたり、偏食矯正は学校にすべて依存していたり、皆と同じ物が食べられるからよいという反面、各個人にあったすきな物を食べさせたいという解答があり、父母の考えの一貫性のなさが目についた。
- ② しかし、学校給食に対する問題点としては、おはしの問題、米飯給食のこと、食べる量のこと、果物、食堂使用等、今後父母と学校と行政ともに考えなければならない問題も提起されている。
- ③ 具体的指導の面では、給食というもののPTAの啓発が不十分でありそのことからおこる不必要な不安や心配が父母の中に多いことがわかり、今後の対応の仕方に十分配慮する必要がある。最後に今後私達教師が学校の問題として考えなければならないことは、
 - ① 食堂でという発想を、現在おかれている学校の中でどう生かすかということ、例えばオープンルームでの給食とか、低中高のたてわり給食、屋外を活用しての給食とか、アイデアを生かす場合はいろいろある。(この場合、給食の献立も食かんからもり分けるのでなく弁当形式の給食などもくふうされるとよい。)
 - ② 学校給食を学級指導の一環としてとらえるという考え方だけにかたよらず、学校教育という立場から工夫する必要もあろう。例えば、学校行事との関連で、たてわり給食を勤労生産的の発想で実施することなど学校の創意と工夫の結果、いろいろの活用の仕方が考え出されなければ、ならないのではなかろうか。

評

学校における給食指導は今日的課題として各方面で論議がかもしだされているところではありますが、学校で直接指導にあたられている先生方にとっては、毎日のことであり、単に食事指導の域を脱していないのが実情のようです。

先生は給食主任として、その教育的価値にかんがみ、現状を改善するため、まず児童・父母を対象に学校給食に何を期待しているか、問題点は何かを適切なアンケート調査により実態や意識を把握し、そのうえに立って今後の給食指導の在り方をさぐられたことは、誠に時を得たものであると高く評価したいと思います。

学校給食は学校や家庭だけではとても解決し得ない行政的な問題を多く含んでおりますが、しかし現状でも児童や教師の創意と工夫によって、イメージチェンジも可能であると確信いたします。先生の意図がさらに大きく広がることを期待いたします。